

Tumor Scanning としては、悪性甲状腺腫全例限局性集積を認めたが良性でも7例中4例に認め、そのみでの良悪の鑑別は不可能であった。しかし、径3 cm以上の乳頭状腺癌と未分化癌は非常に強い集積をみとめた。一方、細網肉腫は大きいにもかかわらず、集積が弱かった。径1.5 cm以下の小さな乳頭状腺癌も陽性像が得られ、骨、リンパ節に転移していた3例はいずれも転移巣に一致し陽性像が得られた。一方、 ^{131}I シンチでヨードのとりこみのみとめられなかった3例は、 ^{201}Tl シンチで、未分化癌は形態不整の異常集積、良性嚢腫は欠損として、また、橋本病亜急性期患者はび漫性に強い集積をみとめた。

8. オートバック T_4 キットによるサイロキシンの測定

原 正雄
(山形大・3内)

抗サイロキシン抗体が測定チューブに固相化されているオートバック T_4 キットを用いて血中サイロキシンの測定を行なった。本キットでは抗体を加える必要がなく、BとFの分離はチューブ内容の洗浄吸引のみでよく、測定操作は簡単であった。

再現性は Intraassay, Interassay とも良好であり、希釈試験、添加回収試験とも満足できる結果が得られた。

本キットを用いての血中サイロキシンの正常値は $7.6 \pm 4.2 \mu\text{g/dl}$ ($M \pm 2 \text{ S.D.}$) であった。各種甲状腺疾患での本キットによる血中サイロキシンの測定は臨床所見とよく一致した。

本キットでのサイロキシンの測定の他の CPBA 法によるサイロキシンの測定結果と良好な相関を示した。

9. タリウム-201 による心筋シンチグラフィーの検討—右心室壁の描出について—

大和田憲司 舟山 進
池田 精宏 麻喜 恒雄
待井 一男 内田 立身
津田 福視 刈米 重夫
(福島医大・1内)
木田 利之
(同・放)

右心負荷を有する心疾患10例にタリウム-201による心筋シンチグラフィーを行い、その左前斜位 30° および 45° 像における右心自由壁描出の有無と右室収縮期圧との関係をみた。右心自由壁は右室収縮期圧 $50 \sim 60 \text{ mmHg}$ 以上でよく描出された。また、ディスクに収集したシンチグラムから左心自由壁 (LV), 心室中隔 (IVS), 右心自由壁 (RV) の各部に ROI を求め、RV/LV, RV/IVS のカウント比をみると左前斜位 45° にて描出群は平均 0.78, 0.78, 非描出群は 0.63, 0.62 と両群に有意差がみられ、右室収縮期圧と RV/LV, RV/IVS 比との間には $r=0.96, 0.95$ と良い相関があった。左前斜位 30° にても同様であった。次に肺でのカウントを用い RV/Lung として相関をみたが $r=0.67$ とよくなかった。以上のことからタリウムによる心筋シンチグラフィーは右心負荷疾患の判定の指標として有用であり、RV/Lung よりも RV/LV, もしくは、RV/IVS 比を用いるのが適当と思われた。

10. ^{201}Tl による肺癌シンチグラフィー —胸部 X 線像および ^{67}Ga との比較—

小田野幾雄 酒井 邦夫
北村 達夫 椎名 真
(新潟大・放)
長沢 弘 杉柳 勇
石井 博
(同・放部)

最近、塩化タリウムによる腫瘍シンチグラフィーが注目を集めるようになった。われわれは、本